

魔法のふでばこプロジェクト 資料



大分県立新生支援学校



学校の概要

本校は大分市内にあり、小学部58名、中学部42名、高等部62名、合計162名が在籍している、県内では最も大きな知的障がいの特別支援学校である。

肢体不自由など他の障がいを併せ有する児童生徒の在籍(約半数)が増え、多様な教育的ニーズに応じた対応や指導方法が課題となっている。

大分県の情報化について

大分県の県立学校では教職員に1台のパソコンが貸与され、児童生徒用はパソコン教室だけでなく、各教室に2台のパソコンとプロジェクタ・書画カメラなどが設置されICT機器についてはかなり充実している。



教育委員会にはICT支援員がいて継続的な研修を行い、困ったときの対応として「ヘルプデスク」も充実しているので、教職員の情報化への対応も進んできている。



プロジェクト参加の目的

児童生徒の障がいの状況が多様化している中で、一人一人の教育ニーズに合わせた指導を行うために今までと違う道具を使い、新しい教育の手立てを見つける。

今年度の目標 (iPadの利用)

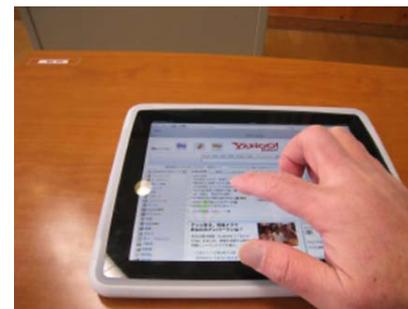
iPadという新しいツールに慣れる。

iPadを自由に使ってみることで、効果的な利用法やそのために必要なアプリなどを見つけ、お互いにその成果を還元する。

iPad使用の環境

iPadは「魔法のふでばこ」の2台（3G）と県からの貸与の2台（WIFI）を合わせて4台のiPadがある。

これを小学部、中学部、高等部にそれぞれ担当者を一人ずつ決めて1台ずつと、1台で足りないときや試してみたいときにいつでも使えるように情報担当者が1台を管理している。



活用の状況①

個別の指導

◎指導者が操作して見せる

- スライドショーで絵や写真を見せる
- ビデオで行事などの動画を見せる。

※ 教室・校外学習・訪問教育などで使用する。



◎児童生徒が自分で操作する

- 教育用アプリなどで学習する。
- インターネットやYouTubeを利用する。
- ゲームアプリで楽しむ。

※ 教室などで使用する。



使用の状況②

グループの指導

◎指導者が操作して見せる。

- プロジェクタや大型テレビにつないで、ビデオの鑑賞やプレゼンテーションを行う。
- アプリを操作してみせたり、課題を提示したりする。

※教室で使用する。

※重度・重複障がいの児童生徒も見やすい位置へスクリーンを置くことで、無理のない姿勢で授業ができる。





使用しているアプリ

本体内蔵アプリ

- Safari インターネット閲覧
- ビデオ, YouTube 動画閲覧
- マップ 地図検索 など

インストールしたアプリ

- iBooks, CloudReaders 電子書籍, PDF閲覧
- Keynote プレゼンテーション
- AVPlayerHD 動画閲覧
- FeelClick, hiragana, かなトーク, DropTalk, FingerPiano
他教育アプリ
- 太鼓の達人 他ゲームアプリ など

※ この他にも多くのアプリを試してみた。



良いところ(成果)

教室や校内だけでなく場所を選ばずに利用ができるので、校外学習や訪問教育で効果的であった。(特に訪問教育では毎回利用している。)

障がいの状況に合わせて、タッチパネルを使っていたり、見やすい位置にパネルを持って行ったりすることができるので、指導の手立てが増えた。

興味を持って、積極的に授業に参加する児童生徒がたくさんいた。

パソコンより起動が速いので、待たずに利用できた。



課題

iPadでは外部の出力に制限がある。

Windowsパソコンのデータとの連携も慣れないと難しい。

入力は直感的に分かりやすい所もあるが、正確なタッチが必要な場合など、児童生徒によってはマウスやキーボードの方が使いやすい。

パソコンとの同期に制限があるため、複数の利用者があるときに管理が難しい。（間違えてデータやアプリを消したことがあった）

来年度も使用できるか分からない。また、使用できたときに課金アプリなどの充実ができるかも分からない。